

山ゆり

ありがとう 姫松小学校



栗原市立姫松小学校閉校記念誌



ありがとう ～みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌～

2013.03



あいさつ

姫松小学校の閉校に寄せて	栗原市長	佐藤 勇	1
姫松小学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会 教育長	亀井 芳光	2
歩む未来の標となろう	栗原市立姫松小学校校長	菅原 太	3
ありがとう姫松小学校	栗原市立姫松小学校PTA会長	氏家 初郎	4
姫松小学校の閉校に想いを寄せて	姫松地区々長会会長	氏家 清弘	5
栗原市立姫松小学校閉校によせて	一迫姫松地区コミュニティ推進協議会会長	久我 俊一	5

姫松小学校の沿革

6～9

歴代校長

10～11

歴代PTA会長

12

校歌

13

校章・校旗・児童数の推移

14

学校の概要

15～16

寄稿文

～歴代校長～	学びのふるさと姫松	第34代校長	佐藤 武久	17
	子どもの成長を喜び、みんなで創り上げた姫松小	第36代校長	長井 健俊	17
	お世話になりました	第37代校長	田代 茂利	18
～元職員～	地域と共に歩む学校	元教頭	及川 和夫	19
	ありがとう姫松小学校		高橋 俊弘	19
	みんなに支えられた5年間		川田 聡	20
	心の故郷に感謝して		村岡 いく子	20
	姫松小学校の思い出	元職員	高橋 初枝	21
～地域の方々～	半世紀を振り返って	昭和25年度卒業	小野寺ハルコ	21
	姫松小学校への思いと今後へのぞむこと	昭和36年度卒業	三浦 一男	22
	木造校舎への思い	昭和39年度卒業	高橋 睦夫	22
	閉校にあたり	昭和41年度卒業	熊谷 孝行	22
	思い出は今も鮮明に	昭和55年度卒業	氏家 栄宏	23
	姫松小学校の思い出	平成3年度卒業	佐藤 彰彦	23
	姫松小学校での思い出	平成14年度卒業	加藤 修	24
	姫松小学校との思い出は本当にたくさんあります	平成19年度卒業	菅原 優海	24
	姫松小での6年間	平成21年度卒業	佐藤 奏絵	25
	思い出の母校	平成24年度 1学年保護者	大内 勇人	25
	姫松小学校最後の卒業生	平成24年度 6学年保護者	大場 義和	26
～在校生～			1年生	27～28
			2・3年生	29～30
			4・5年生	31～32
			6年生	33～34

思い出のアルバム

35～39

あとがき

閉校記念事業実行委員会閉校記念誌部長 小山 浩喜 40



**姫松小学校の閉校に寄せて**

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山を源とする迫川の支流が多く流れる中山間地帯にあり、多くの沢と森、緑に囲まれた山紫水明の姫松の地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた姫松小学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

明治6年に「北沢小学校」として創立以来、140年にわたる長い歴史をもつ姫松小学校は、地域住民の方々の学校教育に対する御理解、御協力のもと地域の温かな目に守られ、健全な児童育成の伝統を築き上げてこられました。

恵まれた地域環境の中、学校及びPTAまた児童個人にわたり幅広い分野において多くの優良受賞をされておりますことは、地域皆様の長年にわたる御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、小学校の合併や法改正による改称などを重ねながらも、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力によりまして、健全な子どもたちの育成やPTA活動が活発に行われてきたのが姫松小学校であります。

こうした環境の中「夢に向かってたくましく生きる心豊かな子どもはぐくみ」を教育目標に掲げ、特に、学力向上に向けては、「ことばの教育」の充実を図り、基礎的な言語技術の習得とその活用によって思考力、判断力、表現力の向上をはじめ、インターネット環境が浸透した現代社会においては、小規模のメリットを生かして、いち早くICT機器を活用した授業改善と個に応じた指導の充実に積極的に取り組まれてきたところであります。さらに「ひめまつに残したい宝さがし」は、家庭や地域の方々との交流を深め、人間性豊かな心を育まれてこられました。

このように歴史と伝統ある姫松小学校が、今日の社会的な問題である少子・高齢化の傾向による児童・生徒の減少などの背景から、栗原市においても学校の再編が避けられず、本年3月31日をもって校史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで姫松小学校を巣立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものがあると拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ姫松の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる教育環境づくりを目指すとともに、姫松小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。





姫松小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

歴史と伝統に輝く姫松小学校は、平成25年4月、一迫小学校・金田小学校・長崎小学校と再編し、新生「一迫小学校」として現在の校舎のもとでスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました姫松地区の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、私は、昭和の大合併前の旧姫松村に生まれたので、昭和29年4月、姫松村立姫松小学校片子沢分校に入学しました。本校に行く機会は少なかったのですが、予防接種のとき、芭蕉衣かけの松のある旧街道を歩き、本校に行った記憶があります。また、町村合併後、私の地区は旧栗駒町に属したことから、旧栗駒町立宝来小学校片子沢分校に通うこととなりましたが、姫松地区は私にとって心のふるさとであります。

また、私は代替教員として、昭和49年7月から50年3月まで勤務させていただきました。当時は珍しかった仙台勝山スケートリンクでのスケート教室で見事に転倒し、大きなコブをつくったことも懐かしく思い出されます。私は、4年間9校の講師を経験しましたが、最後の講師の勤務であり、加えて、3月に結婚式をし、地域の方々や先生方にお祝いをしていただき、忘れられない勤務となりました。

地域の方々も教育熱心で、どんな行事にもすすんで協力してくれる「地域に根ざした」素晴らしい学校で、多くのことを学ばさせていただきました。

合併の変遷を経験しつつも、歴史と伝統に輝く姫松小学校が閉じられるということは、地域の方々にとっても、多くの卒業生にとっても一抹の寂しさを覚えるのは当然のことと思います。しかしながら、児童数が著しく減少し、今後も減少傾向が続く現状を踏まえ、また、急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。

再編するにあたっては、子どもたちも地域の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた姫松小学校の輝かしい歴史や伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくださることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会はじめ関係機関との連帯が大切であります。新たに仲間となる4つの小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていきたいと願っております。

結びに、閉校にあたり、これまで永きにわたり姫松小学校を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げまして、閉校記念誌に寄せる言葉といたします。





歩む未来の標となるう

栗原市立姫松小学校

校長 菅原 太

「草も木も輝きわたる」ここ姫松地区に、明治6年の学制発布とともに一つの小学校が誕生しました。それが、姫松小学校の前身となる北沢小学校でした。

自らの家を仮校舎に、学校を創立したのは丹野啓介（たんのけいすけ）氏。氏は仙台藩大番士（領地を与えられた武士）として戊辰戦争に従軍するも敗戦、維新となり帰郷すると、東京や水沢などで学業を積み30年近く姫松地区の子弟の教育に情熱を注いだといいます。戊辰戦争の敗北を期に、氏は学業振興の重要性を深く認識し、高い志をもって学校経営にあたったと想像され、私も第38代校長として尊敬と感謝にたえません。

現在の姫松小学校の名称は昭和22年4月1日から。昭和30年4月1日付の町村合併で一迫町立姫松小学校になり、さらに平成17年栗原市立姫松小学校となり現在に至ります。過去には、宝来分校及び片子沢分校の本校となった時期もあります。

さて、本校に赴任し校長室の書庫から「小学生が考えた姫松の未来」なる作品集を見つけました。学校評議員の方からその存在については伺っていたものの、手にとってみると、そこには今から20年も前の子どもたちの地域への思いや未来の農業への思いがいっぱい詰まっていました。低学年の子の作文には、「もっとたんぼがひろくなればいいな」という素直な思いがあふれていましたが、高学年の作文には、ちょうど作品集の作成時期が米の不作でタイ米などの輸入を行った後だったこともあって、農業問題を真剣に受け止めた内容のものが多くありました。この作品集は、まさに地域の環境とともにある姫松小学校の姿を象徴するものであります。これまで、春と夏の奉仕作業はもとより、夏祭りや9月の市民体育大会など、姫松地区コミュニティをはじめとする地域の皆様の応援を得て、地域と姫松小学校がまさに一体となって、盛大にそして肌理細やかな運営のもとに活動が展開されました。少子化による児童の減少により本校も再編されることになりましたが、140年の長きに渡って、地域のすばらしい志により運営されてきた姫松小学校の教育活動が終わりを告げてしまうことはまことに惜しいことです。しかし、子どもたちの未来は、たくさんの人々と切磋琢磨して輝かしいものになっていくものと考えます。すべての産業がグローバル化するこれからの時代にあって、姫松地区或いは姫松小学校での思い出を心のよりどころとして、世界に羽ばたく人材となってほしいと思います。「身と心 たゆまず強く 真理をめざし ただひとすじに 歩む未来の標となるう」これは、本校の校歌に歌われている私の好きなフレーズですが、子どもたち一人一人が生き生きとして輝き、学校の中心となって再編後の新たな「歩む未来の標たる小学校」を作り上げてほしいと思います。

結びに、閉校にあたりましてご尽力を賜りました栗原市教育委員会並びに一迫地区小学校再編準備委員会の皆様、関係各位に御礼と感謝を申し上げ、また、新生一迫小学校のますますの発展をご祈念申し上げ閉校記念誌への言葉とさせていただきます。



平成24年11月 集合写真





ありがとう姫松小学校

栗原市立姫松小学校
PTA会長 氏家 初郎

明治6年から北沢小学校として始まり、140年続いた姫松小学校も地域の方々に惜しまれながら閉校を迎えることになりました。姫松小学校を卒業された人達にとっては、自分が通った小学校が無くなってしまうことはとても切なく思っていることでしょう。私が在籍していた昭和50年代でも全校児童で約100人前後でしたが、児童数の減少に歯止めがかからず、現在は全校児童で40人と複式学級は2クラスという状態になっておりました。少人数にもかかわらず、先生方のご努力、地域皆様のご理解とご支援により、学習・スポーツ各種発表会などでも姫小の子供達は堂々たる成績を収めることができたこと、必ずや子供達の自信と良き思い出になったことと思います。

私が入学した当時は木造校舎で5年ほど過ごし、今の校舎で卒業しました。新校舎を作る際、体育館をベニア板で仕切り勉強したことは、今でも鮮明に覚えております。

学生時代を振り返ったとき、小学生時代に受ける影響は大きいと思います。初めての授業、団体生活など戸惑いもありましたが、先生方や地域の方々の愛情に包まれて無事に小学生時代を過ごすことができました。

本年をもって姫松小学校が閉校となってしまうのが本当に残念ではありますが、140年の間、それぞれの年代で沢山の思い出の場となったことでしょう。あるときは自分達の学び舎として、あるときは自分達の子供の学び舎として、そして忘れていけないのが地区民運動会の場として地域コミュニティ交流の大切な場所でした。上は80代、下は0歳児、結婚して新しく地区民に加わった人など、毎年とっていいほど新しい仲間が増え、それを確認できる場所でもありました。

ただ子供達に勉強を教える場所にとどまらず、PTA会員や多くの地区民の心のよりどころとなっておりました。また、小さい規模の学校だからこそできる行事や活動を通して教わった事など、環境的には家庭的な温かいものを感じていました。

これから姫松の子供達は一旦小学校に通い学校生活を送ることになりますが、在校生の子供達にとっては、慣れ親しんだ環境から一変し大変だろうと思います。持ち前の明るさと元気で早く新しい環境に慣れていく事を願っております。また姫松小学校の最後のPTAの代表として、諸先輩方が築き上げてこられた姫松の良い伝統を少しでも伝える事ができるよう努力してまいります。

最後に本記念誌編集にあたり、多数の方から資料の提供、並びに寄稿戴きまして誠に感謝致します。また、本誌に掲載されなかった資料も多くあり、各々の時代の思い出、品々がありましたこと、この場をお借りしてご報告致します。姫松小学校最初で最後の記念誌発行という重大な作業に資料の収集、原稿の依頼から編集までご苦労されたことと思います。編集委員長をはじめとし、委員の皆様にご心より感謝と敬意を表しまして記念誌発行に寄せる言葉と致します。



平成15年 あいさつ標語



平成20年 早朝作業





姫松小学校の閉校に想いを寄せて

姫松地区々長会

会長 氏家 清弘

西に秀峰栗駒山を望み、東に霊峰築館杉葉師を眺め自然豊かな環境のもと「夢に向かってたくましく生きる心豊かな子どものはぐくみ」を教育目標として多くの学びを与えてきた姫松小学校が平成25年3月をもって閉校となり長く輝かしい歴史に幕を閉じ、姫松小学校・一迫小学校・長崎小学校・金田小学校が再編され新生『一迫小学校』としてスタートすることになりました。

我校は明治・大正・昭和・平成と激動する時代の中で数次の町村合併と教育体制の変遷を経、北沢小学校から姫松小学校へと改称し、およそ140年に亘る長い歴史と伝統を築き姫松地域の発展に貢献されました。

この間、多くの優れた人材を世に送り出し県内外において、また各分野で幅広く活躍されておられますことは、姫松地区民の名誉でもありこの上ない誇りでもあります。

しかしながら姫松小学校の閉校は卒業生にとっても地域の方々にとっても愛惜の想いと寂しさを誰もがお待ちのことと思いますが、子供達の未来には大きな夢と希望が輝いております。

平成25年4月より新生一迫小学校に通学することになりますが、これまで地域と共に歩んで来た姫松小学校の輝かしい歴史や伝統の灯を消すことなく、多くの友と励まし支え合って力強く羽ばたくことを強く希望しております。

おわりに閉校に当たり、姫松小学校をこよなく愛し支えてこられた地域の皆様と記念誌発行事業実行委員会の皆様に心から敬意と感謝を申し上げ記念誌に寄せる言葉といたします。

栗原市立姫松小学校閉校によせて

一迫姫松地区コミュニティ推進協議会

会長 久我 俊一

栗原市立姫松小学校の閉校にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

本校は明治6年北沢小学校として創立され、開校以来140年にわたり輝かしい歴史と伝統を築き、地域の発展に多大な貢献をされてこられました。

コミュニティが発足以来当校と姫松地区コミュニティ推進協議会は、一丸となって諸行事に取り組んで参りました。

「姫松地区元気っ子まつり」ではPTAの方々にもご協力をいただき、ハイルザーム栗駒での雪遊び、竹スキー、バーベキュー、スケート等、様々な活動を体験できたことは楽しい思い出として心に残っております。子ども達の楽しそうな笑い声、弾ける笑顔は何事にも代え難いものです。

平成13年度第53回大会から姫松小学校運動会と合同で開催している姫松地区ふれあい市民体育大会。第63回となる今年度は姫松小学校としては最後となる運動会となりました。思い出の1ページにと航空写真撮影を企画し、巣立ちゆく学び舎と共に皆の素晴らしい笑顔記念の写真に収めることができました。加えて地域の方々も多数ご参加いただき、児童と共に大会を盛り上げて下さり大成功に終える事ができました。地域の皆様の温かいご支援の気持ちに深く感謝申し上げます。

このように地域と学校が共に歩んできた中、地域、同窓生の方々にとりましては母校の閉校は感無量のものがあると拝察致します。私自身も少年時代を過ごした卒業生として、また二人の子どもの卒業を見送った親として、この日を迎えると惜別の情を一段と深く感じます。

姫松小学校は長い歴史に幕を下ろすこととなりますが、築き上げた歴史と伝統は皆さんの心の中に生き続けることと思います。また、我々はそれを長く後世へ伝えていくことが使命だと確信しております。

燃えろ！ 姫松っ子

ありがとう 姫松小学校！



平成13年9月2日 姫松地区ふれあい町民体育大会





年	月	姫松小学校のあゆみ	その他のできごと	
明治	6	6 北沢小学校 丹野啓介居宅において開校 児童 38 名 (男のみ)		
	7	北沢村十文字に校舎を新築する		
	8	校舎を増築する (教室 4) 児童 41 名 (男 34 名、女 7 名)		
	12	学校用地免税となる	北沢村、狐崎村が合併し、 王沢村となる	
	13	学校田を設定する (3 畝 2 歩)		
	15	北沢中等小学校と改称		
	3	大暴風あり、校舎傾斜し障壁破壊する		
	19	新校舎建築起工		
	20	4 北沢尋常小学校と改称 片子沢小学校を分教場として併合		
	21	3 裁縫専修科をおく (児童 28 名)		
	22	4 姫松尋常小学校と改称 北沢小学校、片子沢小学校、宝来小学校を併合し、本校を姫 松尋常小学校とし、片子沢、宝来の両校を分教場とする	王沢村、片子沢村、宝来村 が合併し姫松村となる	
25	5 王沢尋常小学校と改称 片子沢、宝来の両分教場とする			
34	4 姫松尋常高等小学校と改称			
41	修業年限 2 ヶ年の高等科を併置し、片子沢、宝来の両尋常小 学校を分教場とする			
大正	5	12 新校舎落成		
	昭和	6	片子沢分教場従来 4 年まで収容のところ 3 年までと改める	
		10	宝来分教場従来 6 年まで収容のところ 5 年までと改める	
	5	宝来分教場新築校舎落成		
	16	2 姫松国民学校と改称 (全国の小学校を国民学校と改称)		
	19	5 姫松村青年学校が独立する		
	20	食糧増産、空襲防衛のため、校庭の 3 分の 2 を開墾 疎開学童、宝来分教場に入る 初等科 13・高等科 4 の 17 学級となる		
	22	4 姫松村立姫松小学校と改称		
	7	父母教師会を組織	姫松中学校開校 (4 月 16 日)	
	27		姫松中学校電話開通 姫松中学校新築校舎落成	

年	月	姫松小学校のあゆみ	その他のできごと
昭和	4	一迫町立姫松小学校と改称	町村合併、新一迫町誕生
	11	姫松小学校 P T A 教育研究大会参加（白石市）	
31	4	宝来分校は栗駒町立宝来小学校に昇格 片子沢分校は宝来小学校の分校となる	片子沢 30 戸、栗駒町から一迫町に編入（8 月）
32		遊び場が完成する	
	5	姫松地区幼児学級開講（幼児 65 名）	
	7	姫松小学校で志津川町袖浜に初の「海浜学校」開設	
	9	簡易水道、足場の設置	
	11	図書館教育優秀校として県教育委員会より表彰	
33	8	姫松小中併用屋内体育館完成 校庭拡張（学区民 1,500 人の協力による）	
34	10	姫松小学校ミルク給食開始	
35	2	屋体のステージ幕、暗幕（伊藤八郎氏寄贈） 姫松小学校母親大会（母親 150 名）	姫松診療所閉鎖（7 月）
36	1	姫松小学校 学校給食開始	
37	3	姫松小学校校歌制定	王沢簡易水道 姫松中学校増改築（8 月）
	7	鼓笛隊を編成する	
39	5	姫松小中学校合同運動会開催（中学校統合まで開催）	
			姫松大又地区に電灯（昭和 39 年 10 月）
40	3	校庭の排水溝工事終了	
	12	西校庭の造園第 1 次完成	一迫町学校給食センター完成（11 月）
42	4	学校給食開始、ジャングルジムの設置	
	11	国語科公開研究会実施	姫松中学校と一迫中学校が統合（3 月） 旧姫中跡に宮城縫製工場操業（従業員 60 名）（8 月） 第 1 回町内 4 幼児学級合同運動会
		イナゴとり姫小売上 7,500 円	
43		自転車置き場の新設 教室塗装 特殊学級開設	一迫町立幼稚園姫松分園開園 姫松スポーツ少年団結成（町内初）（7 月）
	10	姫松小学校 6 年生、初の一泊修学旅行	
44	8	姫松小学校にプール町内第 1 号完成	
45	5	日本縦断マラソン出発式	
	10	体育科公開研究会実施	
46	11	算数科自主公開研究会実施	
47	6	社会福祉普及校の指定（社会福祉協議会）	



年	月	姫松小学校のあゆみ	その他のできごと	
昭和	47	11	緑化コンクールに努力賞受賞 県制百年記念植樹	
	48	11	緑化コンクールに努力賞受賞	
	49	4	創立百周年記念式典挙行 校章制定	
	51	8	校舎屋根張り替え	
	52	4	道徳教育共同推進校指定	姫松警察官駐在所廃止
	53	5	仮校舎移転及び旧校舎解体	
		10	道徳教育共同推進校公開研究会実施	
		12	姫松小学校完成	
	55	1	姫松小学校屋体完成、校舎前芝生造	第1回姫松地区芸能まつり (2月) (午前：姫小児童学芸会 午後：芸能まつり)
	56		ことぶきカレンダー作成開始	
	57		JRC加盟、学校田耕作開始	
	58		「山ゆり児童会の歌」制定	一迫町農村婦人の家開所(5月) 姫松地区体育館完成(12月) 姫松小バレーボールクラブ 県北新人大会ブロック優勝
	62		花壇コンクール入賞	第40回記念姫松地区町民体育大会
	平成	元		P T A表彰(県P T A安全会より) J R Cが表彰(日本赤十字県支部より) ボランティア活動普及事業協力校の指定 屋上改修工事完了
2			祭り半纏120着寄贈(元校長伊藤定氏)	
6			姫松音頭の復活、プール改修工事完了	
3		4	在学青少年生徒指導推進モデル地区指定	
4		4	姫松小学校開校記念日制定「6月13日」 学校田の耕作中止	
6			環境教育モデル校(県環境衛生部より)	姫松簡易水道完成(8月)
7			愛鳥教育推進校 ボランティア活動普及事業協力校 「優良P T A」として表彰(県P T A連合会より) 芋塚川魚類観察水槽設置 特別地域学級「へき地校」指定 「よい歯の学校」表彰(県歯科医師会より、22年まで毎年受賞)	
8			プール排水溝修繕	
9		11	「健康教育推進校」表彰(県教委より) プール防水塗装工事完了	
10		1	姫松小学校校舎大規模改修、コンピューター室増築	
		4	姫松小学校校庭拡張工事(200mトラックとなる)	
		9	プール循環機械交換	第50回記念姫松地区町民体育大会



年	月	姫松小学校のあゆみ	その他のできごと
平成	11	体育館床塗装工事 コンピューター 11 台設置 ゴミ集積所設置	一迫、長崎、姫松の幼稚園 統合し一迫幼稚園になる 姫松小学校最後の運動会
	12	プール排管及び防水塗装工事 体育館前校庭排水工事	
	13	6 特別活動室前掲示板設置	
	11	心をはぐくむ教育活動推進校	
	14	プール循環装置修理 体育館ステージ幕の修理	
	16	グラウンド整備工事完了 宮城県学校花壇コンクール入選（宮城県緑の会より） 学校サーバー活用実証事業研究校	
	17	4 栗原市立姫松小学校と名称変更（栗原市統合） 宮城県学校花壇コンクール入選（宮城県緑の会より） プール耐震改修	
	18	2 学期制実施 宮城県学校花壇コンクール入選（宮城県緑の会より）	
	19	11 一迫地域教育向上支援事業公開研究会開催（県教委） 宮城県栗原・登米教育事務所管内初任者研修公開校 東書教育賞全国入選、総合初等教育研究所奨励賞受賞 宮城県学校花壇コンクール入選（宮城県緑の会より）	
	20	6 岩手宮城内陸地震による校舎、プール一部改修工事 複式学級が 2 学級となる	
	21	4 「豊かな体験活動推進事業」文部科学省研究指定 地上デジタルテレビ 10 台設置 空き缶回収小屋設置	
	22	4 「学力向上サポートプログラム事業」宮城県教育委員会研究 指定 スクールカウンセラー設置	
	23	3 東日本大震災により校舎一部、体育館に被害、改修工事 児 童被害なし 4 月 14 日第 1 学期始業式、15 日入学式 遊具点検補修、一部撤去 エアコン設置（校長室、職員室、保健室）	
	25	3 姫松小学校閉校式、記念碑除幕式、閉校を惜しむ会を開催	



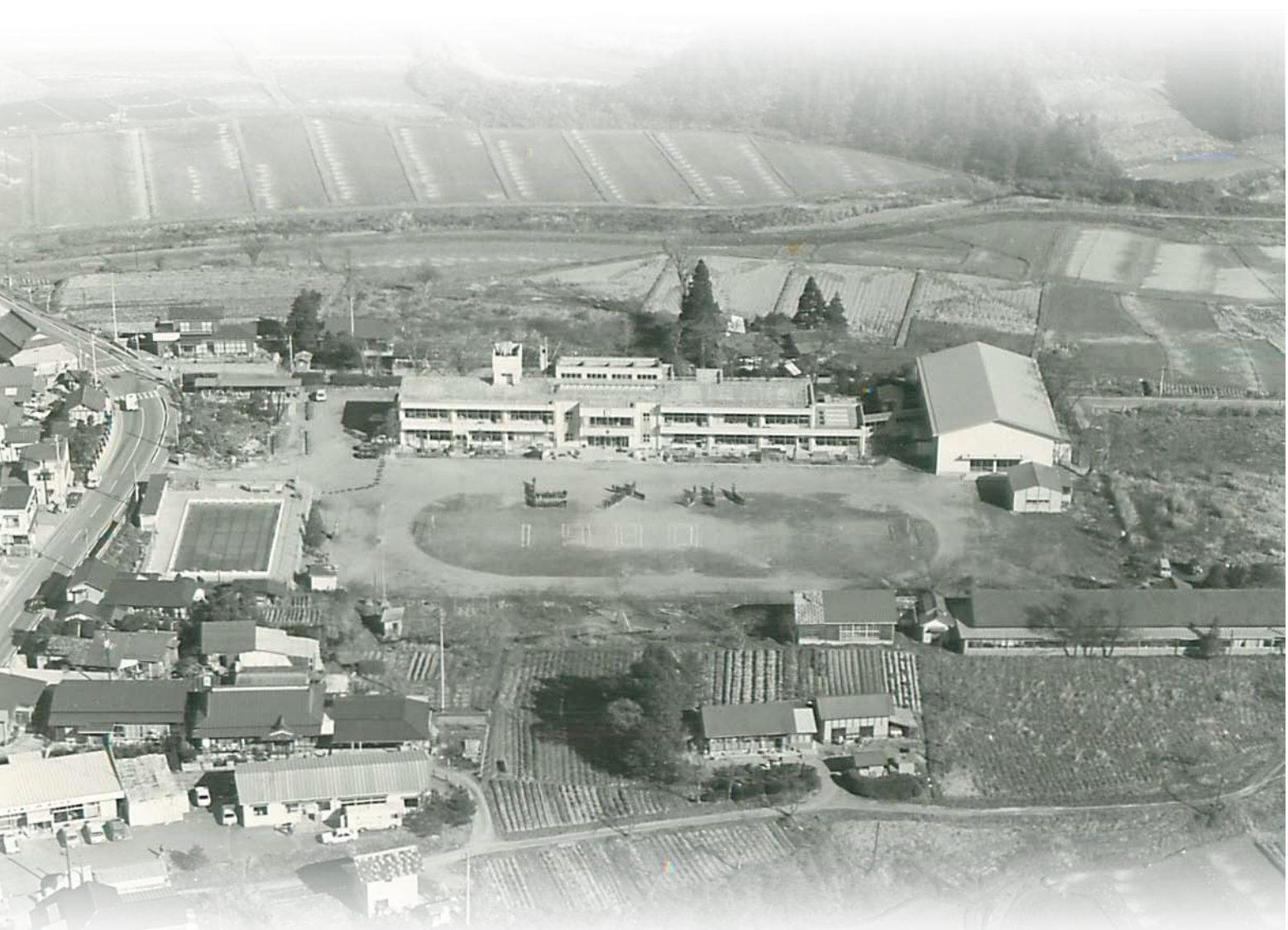


初代	明治6年6月～明治14年3月	丹野 啓介	校長
第2代	明治14年度	佐藤 蘭造	校長
第3代	明治15年度～明治32年度	丹野 啓介	校長
第4代	明治33年度～明治38年度	小山喜三郎	校長
第5代	明治39年度	小山 義昌	校長
第6代	明治40年度～大正2年度	浅野 久蔵	校長
第7代	大正3年度～大正6年度	木村 見吾	校長
第8代	大正7年度～大正11年度	草刈 内記	校長
第9代	大正12年度～昭和7年度	高橋比登志	校長
第10代	昭和8年度～昭和11年度	上坂 信勝	校長
第11代	昭和12年度～昭和17年度	菊地 譲	校長
第12代	昭和18年4月～昭和19年4月	三浦 忠雄	校長
第13代	昭和19年5月～昭和21年2月	長沼 実	校長
第14代	昭和21年3月～昭和22年3月	松田良太郎	校長
第15代	昭和22年4月～昭和24年2月	谷田 了誓	校長
第16代	昭和24年3月～昭和27年3月	菊地 勝見	校長
第17代	昭和27年度～昭和29年度	菅原 博	校長
第18代	昭和30年度	阿部 盛	校長
第19代	昭和31年度～昭和34年度	三浦 瑩	校長
第20代	昭和35年度～昭和37年度	鈴木 正夫	校長
第21代	昭和38年度～昭和40年度	伊藤與四郎	校長
第22代	昭和41年度～昭和42年度	伊藤 博	校長
第23代	昭和43年度	小野寺 功	校長
第24代	昭和44年度～昭和45年度	八木 早苗	校長
第25代	昭和46年度～昭和47年度	松田 茂夫	校長
第26代	昭和48年度～昭和50年度	柳川 惇	校長





- 第27代 昭和51年度～昭和52年度 遊佐 桂 校長
- 第28代 昭和53年度～昭和58年度 菅原 一容 校長
- 第29代 昭和59年度～昭和60年度 三浦 道雄 校長
- 第30代 昭和61年度～昭和63年度 坂田 啓 校長
- 第31代 平成元年度～平成2年度 伊藤 定 校長
- 第32代 平成3年度～平成5年度 多田 節夫 校長
- 第33代 平成6年度～平成9年度 千葉理恵子 校長
- 第34代 平成10年度～平成11年度 佐藤 武久 校長
- 第35代 平成12年度～平成15年度 佐藤 勲 校長
- 第36代 平成16年度～平成19年度 長井 健俊 校長
- 第37代 平成20年度～平成22年度 田代 茂利 校長
- 第38代 平成23年度～平成24年度 菅原 太 校長





初代	昭和22年度～昭和24年度	高橋 康郎	会長
第2代	昭和25年度～昭和26年度	菅原 通長	会長
第3代	昭和27年度～昭和28年度	小野寺一美	会長
第4代	昭和29年度～昭和34年度	伊藤 八郎	会長
第5代	昭和35年度～昭和37年度	氏家 東吾	会長
第6代	昭和38年度～昭和41年度	佐藤 吉春	会長
第7代	昭和42年度	村山 市蔵	会長
第8代	昭和43年度～昭和46年度	高橋 勝善	会長
第9代	昭和47年度～昭和48年度	阿部 通	会長
第10代	昭和49年度～昭和50年度	氏家 清弘	会長
第11代	昭和51年度	佐藤 忠臣	会長
第12代	昭和52年度～昭和55年度	三浦 義彦	会長
第13代	昭和56年度～昭和59年度	菊池 忠志	会長
第14代	昭和60年度	伊藤 光彦	会長
第15代	昭和61年度	菅原 徳芳	会長
第16代	昭和62年度～昭和63年度	小山 一夫	会長
第17代	平成元年度～平成2年度	佐藤 正明	会長
第18代	平成3年度	白鳥 義征	会長
第19代	平成4年度	阿部 東吾	会長
第20代	平成5年度～平成7年度	遊佐 信彦	会長
第21代	平成8年度～平成10年度	佐藤 清博	会長
第22代	平成11年度～平成12年度	氏家 竹道	会長
第23代	平成13年度	小山 健治	会長
第24代	平成14年度	菅原 篤	会長
第25代	平成15年度	熊谷 和幸	会長
第26代	平成16年度～平成17年度	菅原 次男	会長
第27代	平成18年度	佐藤 健	会長
第28代	平成19年度～平成20年度	菊池 哲也	会長
第29代	平成21年度～平成22年度	高橋 健二	会長
第30代	平成23年度	佐藤 政博	会長
第31代	平成24年度	氏家 初郎	会長





姫松小学校 校歌

扇畑 忠雄 作詞
海鋒 義美 作曲

明るく生々と (♩=116位)

mf

1. か ぜ そ よ く ふ る さ と の や ま
く り こ ま に あ さ の ひ は え て

mp *mf*

く さ も き も か が や き わ た る き ぼ う お お
き く は げ ま し - あ っ て そ だ っ い の
ち の ひ か り と な ろ う あ あ ひ め
ま つ ひ め ま つ し ょ う が こ う

校 歌

作詞 扇畑忠雄
作曲 海鋒義美

一 風そよくふるさとの山
栗駒に 朝の日はえて
草も木も かがやきわたる
希望大きく 励ましあって
そだつ命の光となろう
ああ 姫松 姫松小学校

二 星光る ふるさとの国
迫川 せせらぎ清く
空と水 しずまりわたる
理想をかけて力をつくし
学ぶ心の 基となろう
ああ 姫松 姫松小学校

三 草がおる ふるさとの土
踏みしめて 時代に生きる
身と心たゆまず 強く
真理をめざした一すじに
歩む未来の標となろう
ああ 姫松 姫松小学校



校章 (校章の由来)



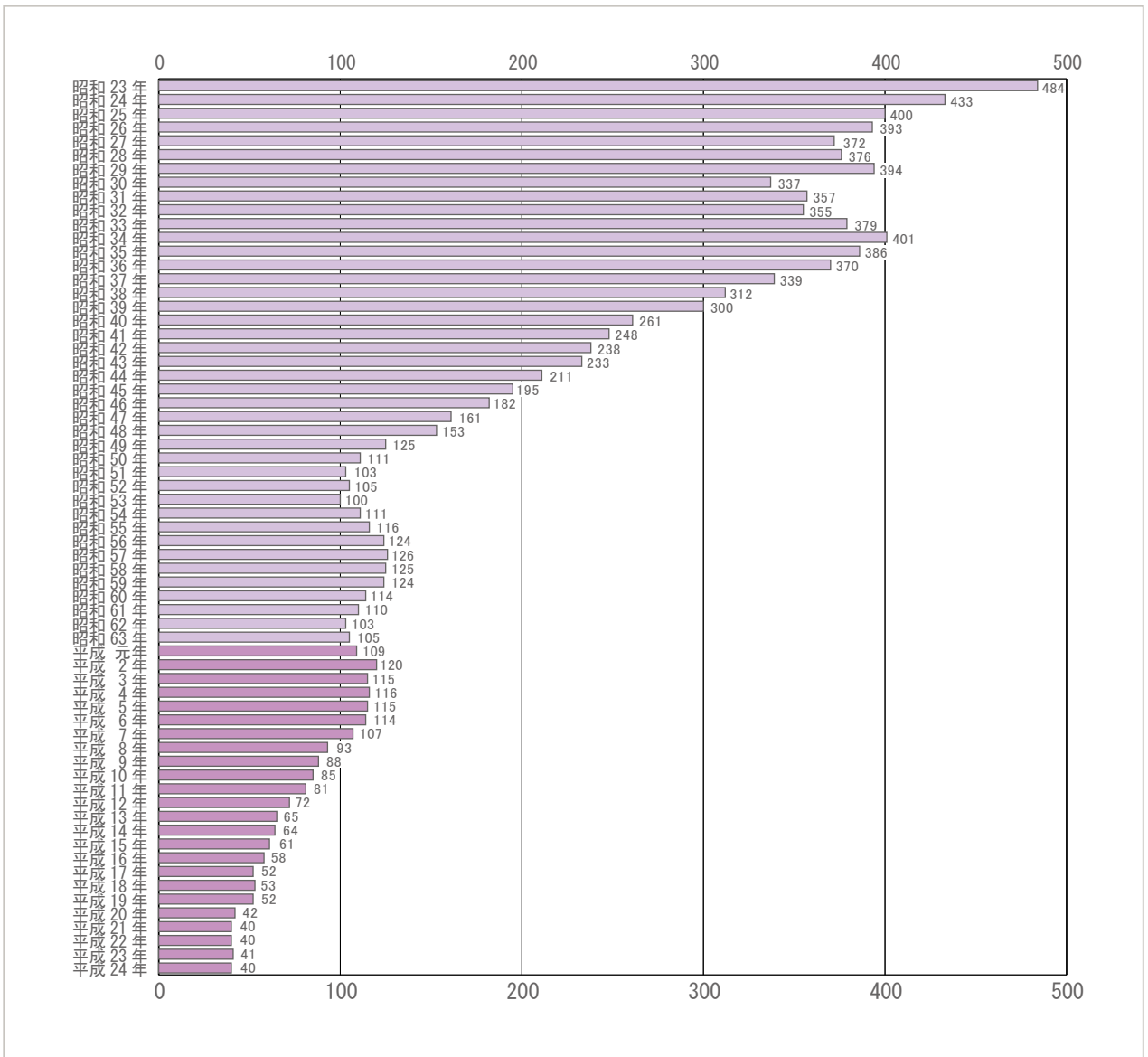
校章は、この校木の『アカマツ』の松葉と校名「姫松小学校」の「ひ」と「め」をデザイン化したものである。

校木

校木は「姫松小学校」の校名にちなみ、『アカマツ』としその象徴として、校舎玄関前に植樹してある。



児童数の推移





地域の概要及び児童の様子

姫松小学校は、栗原市の北西部に位置し、一迫川と二迫川にはさまれた中山間地帯にあり、多くの沢と森、緑に囲まれ、自然環境に恵まれた地域である。

現在の学区は、旧姫松村が、昭和30年の町村合併によって、旧一迫町・栗駒町・築館町の3町に分村され、旧一迫に合併した地域にある。世帯数285戸、人口1,048人（平成24年3月現在）で、地区は7行政区に分けられている。

学区は東西約6km、南北約4kmでその中央に学校が位置し、通学距離も遠い児童でおよそ5kmである。

かつては、米作の農家を中心だったが、最近では、保護者の多くが近隣の工場や会社に出勤しており、ほとんどが第2種兼業農家である。

保護者の教育への関心は高く、PTA活動、特に学年PTA活動や専門委員会活動などは、主体的に計画を立て実践している。

児童は明るく素直で、集団行動のきまりもよく守られている。縦割り班活動を中心に異年齢集団の活動を活発に行ってきた。積極的に自己を表現する力や基礎学力の向上に重点を置いた指導を行っており、様々な分野で児童の表現力の高まりや活躍する姿が見られるようになってきている。

本校は、地域とともに歩む学校として保護者と地域の方々から大切にされている。



航空写真

**学びのふるさと姫松**

第34代校長 佐藤 武久

道が十字に交差する一角、桜の大木に囲まれた学校—自転車から降りた子供達が「おはようございます」と、元気な掛け声と共に優しく低学年の子供の手を取り、昇降口方面に走って行きました。大規模改修後の木の温もりや香り、清掃の行き届いた校舎—「ああ、やはりいい学校だな」という実感を抱いて姫松小学校に赴任しました。平成10年4月のことです。園児10名、児童数85名、教職員13名—私は2年間お世話になりました。

姫松小学校には、「学びのふるさと」つくりにはふさわしい環境=自然風景や史跡、人的・物的教育力が沢山整っているなと思いました。伝統ある「ことぶきカレンダー」（祖父母や近隣への似顔絵カレンダーの制作）では、郷土の画家菊地義彦先生のご指導の下、人物画の描き方等を教わりました。時間をかけ、丁寧に仕上げていく子供達の腕前に驚きました。こうした福祉ボランティア活動による「心づくり」だけでなく、200Mに拡張整備された校庭での「体づくり」に情熱溢れる先生方と種々汗を流した子供達の姿が今でも浮かんで来ます。又1年間でしたが、幼稚園長として「孫」のような子供達と楽しい保育活動に触れる事も出来ました。陰に陽に学校を支えてくれたのは用務員の高橋さんです。

当時の佐藤町長さんや遠藤教育長さんはじめ行政区長さん方、地域、PTAの方々の学校に寄せる思いやご配慮—この三者のチームワークが本当に良かったなという印象をもっています。体育館の床塗装やプール改修、パソコンの導入も早期に実現したと思います。

今、多くの有為な人材を育んだ歴史と伝統ある姫松小学校が時代の変化の中で、その幕を閉じるという事は、大変なさびしさや郷愁感を覚えますが、たとえ学校の営みは無くなっても姫松の地の特色ある学びや育まれた力は、巣立った人々に受け継がれ、語り継がれて未来に力強くはばたいて行くものと信じます。これまで関わられた皆様、地域の方々のご尽力とご努力に深く感謝と敬意を表します。



平成10年4月 運動会総練習

子どもの成長を喜び、みんなで創り上げた姫松小

第36代校長 長井 健俊

平成16年4月に赴任、それから退職までの4年間お世話になりました。この間、輝く子どもたち、輝く地域・保護者の方々・職員の皆さんとご一緒させていただき、嬉しく過ごさせていただいたことは、生涯の思い出となりました。

4年間で出会った子どもたちはどの子も、職員の皆さんが一人一人を深く理解し、非常によく関わり、よい子どもたちが育成されていました。PTA活動ではそうした子どもたちを育む家庭環境を考え、よりよい子どもの育成をと積極的な動きを行っていただきました。こうして学校教育と家庭教育とが、子どもの限らない成長のために共に頑張り、皆で創り上げていったのが姫松小の教育でした。この姿を皆さんにご覧いただいたのが、平成19年秋に行った登米・栗原合同の新任教員研修会場校としての学校公開、及び一迫地域教育力向上支援事業公開研究会でした。

新任教員研修では、参加者から「姫松小の子どもたちの姿に鳥肌が立ち、合唱には眼を熱くしてしまいました」「教師を目指してよかったと思いました」などの言葉が寄せられていました。また一迫教育力公開研究会では、参加の先生方から「教育活動全てを意識付けし、計画が明確にされて児童・保護者にまで伝わっていた」「児童の様子に、学校が好きなんだなあという思いを深めた」などの感想が寄せられていました。

次の年、これらの姫松小の研究を纏めたものが、平成20年2月に東京書籍教育賞、総合初等教育研究所研究賞の二つの教育賞に於いて認めていただきました。

語り尽くせないたくさんの思い出。変容の扉を開いて待つ子どもたちを前に、追究の手を緩めず皆で教育活動に邁進してきた姫松小での日々は、必ず子どもたちの心の奥底に残り永遠に生きていくことであると確信しています。





お世話になりました

第37代校長 田代 茂利

皆さんにとって母校として、また地域の学校としての歴史と伝統ある学舎には語り尽くせないほどの思い出があり、時代のすう勢とはいえ、140年の長い歴史に幕を下ろし、この地域から小学校の灯が消えることは万感の思いがあったことと拝察いたします。私も校長として3年間の勤務ではありましたが、皆さんと同じ思いであり、惜別の念に堪えません。しかし、学舎としての学校がなくなっても、一人一人の心の中に姫松小学校は生きていくことと信じております。

姫松小学校勤務の3年間、岩手・宮城内陸地震と東日本大震災という二度にわたっての災害に遭遇しました。忘れもしない岩手・宮城内陸地震は6月14日、会津若松の修学旅行から帰ってきて二日後に襲った誰もが予想しなかった大地震、当日、4・5年生は栗駒山方面への学年PTA行事、マイクロバスで戻ってきた子どもたちの顔を見て安堵したこと、未だに忘れられません。そして、一昨年の3月に発生した東日本大震災、国内最大級の巨大地震、未曾有の事態に直面しました。水道、電気等ライフラインが一週間以上も止まり、私も一週間ほど学校に寝泊まりし、保護者、地域の皆さんにはいろいろな面で助けていただきました。卒業式は体育館の照明器具等の落下もあり、視聴覚室での一週間遅れの卒業式となりました。二度の大地震で一部行事の変更もありましたが、子どもたちは最後まで一生懸命歯を食いしばり頑張ってくれました。私が勤務した3年間、保護者、地域の皆さんのご理解、ご支援がどれだけ大きかったことか、ただただ頭が下がります。ありがとうございました。

再編される新しい学校においても、子どもたちが一日でも早く新しい環境に慣れ、自分の力が十分に発揮できるよう願うと共に、新生一迫小学校がこれまでの姫松小学校と同様、皆さんに親しまれる学校になってほしいと祈念しつつ閉校にあたっての言葉といたします。



平成13年4月 政岡まつり



平成10年 学芸会

当時のようす



平成22年 音楽祭



平成17年 入学式

地域と共に歩む学校

元教頭 及川 和夫

姫松小学校には、平成11年度から3年間勤務させていただきました。当時を振り返ってみますと、小規模校ながら、子供たちは、とても明るく活動的であったと思います。3年間の勤務の中で、特に心に残っていることは、「寿カレンダー」「合同運動会」「合同修学旅行」などです。

「寿カレンダー」は、地域の高齢者に手作りのカレンダーを制作し贈る活動です。地域の人々とのかかわりや思いやりの心を育てるという目的で始まった歴史のある教育活動です。高齢者の方々にも、とても喜んで頂けた活動だったと思います。カレンダーづくりでは、子供たちが高齢者の似顔絵を描くために何度か訪問し、絵を仕上げていきます。その過程で高齢者と話をするなど様々な交流が生まれるのです。地域の方々や保護者の協力があったから、この活動ができたのではなかったかと思えます。

「合同運動会」は、小学校の運動会と地区コミュニティ協議会の運動会を合同で行うというもので、平成13年度からスタートした運動会です。事前に小学校と地区コミュニティとが話し合いをもち、小学校、地域、それぞれの目的が達成できるような合同運動会が始まったのです。子供たちも、地域の方も十分満足のいく運動会だったように思います。

「合同修学旅行」は平成13年度に姫松小学校と花山小学校が合同で行った修学旅行です。両校とも旅行目的地が同じ場所であること、人数的なこと、子供たちの交流のこと、経費の面等を考えた上での合同の修学旅行でした。はじめ、子供たちは、ちょっぴり不安・緊張感もあったようですが、十分な収穫があったように思います。

140年の歴史と伝統を誇る姫松小学校はまさに、地域に育てられ、地域と共に歩んできた小学校ではなかったかと思えます。



平成12年10月22日 学芸会

ありがとう姫松小学校

元教頭 高橋 俊弘

大河原出身の私が、新任の教頭として赴任した姫松小学校。栗原市に住むのも、単身赴任するのも、教頭職に就くのも、何もかもが、初めてで、とまどいながらも楽しく充実した毎日を過ごさせていただきました。子供達の純朴で屈託のない明るさ、保護者の皆様の常に協力を惜しまぬ優しい人柄、地域の方々の学校に寄せる温かい思いなどなど。転勤して半年になりますが、いつも思い出しては懐かしむ毎日です。

中でも忘れられない思い出として、3.11の東日本大震災があります。ちょうど高学年は6時間目の授業中、校庭では先に下校した低学年の子供達が遊んでいたときです。職員室が、いや学校がひっくり返るかと思うぐらいの強烈な衝撃が走りました。停電で校内放送が使えず、慌てて大声で2階教室まで駆け上がったことを覚えています。何とか無事に全員が校庭に避難し、雪の降る中、震えながらご家族の皆さんのお迎えを待つ子供達。あの光景は、未だにありありと目に浮かびます。それからの毎日は、学校再開に向け関係機関と連携しながら仕事を進めてきました。電話が通じず、家族と連絡がつかない不安な日々でしたが、保護者、地域の皆様の温かいご支援をいただき、また頼もしい同僚の前向きな姿に支えられて、私も私なりに頑張ることができました。

姫松小学校はこの度の閉校によりその歴史に幕を下ろしますが、あの震災にも負けず力強く復活することができたという事実は、これからもずっと私達の心に残り続けると思います。

忘れ得ぬ学校、それが姫松小学校です。



みんなに支えられた5年間

教頭 川田 聡

姫松小学校に赴任したのは平成7年4月でした。赴任してすぐに6年生を担任させていただきましたが、これまでの流れがよく分からずちょっと大変でした。しかし、その分自分の思い通りできたことも事実です。日曜日に6年生を集めて学芸会の練習をしたり、卒業式の服装を中学校の制服から私服にしたりと、いろいろなことにチェンジできた年でもありました。これまでの長い歴史を変えることは難しいものですが、それを可能にできたのも子どもたちのおかげでした。その後は、生活科の研究にかかわり、低学年を担当することが多くなりましたが、どの学年でも大きな目を輝かせながら素直にたくさんのことを吸収してくれる子どもたちでした。

ちょうどそのころは、「ゆとり教育」「学校週5日制」「総合的な学習の時間」等教育改革の真っただ中でした。すべてを自分たちで作り出すことは大変でしたが、「何が子どもたちに必要なのか。」「姫松という地域で何ができるのか。」等を仲間と一緒に考え創り上げていったことは、私自身の大きな財産となって残っています。

その際、地域に目を向けようということで、芋塚川で環境指標となる魚を捕獲したり、たくさんの水槽を玄関に置いて飼育したり、サケの卵のふ化も試みました。そのような活動を通し、子どもたちも次第に芋塚川に興味を持ち、網を持って魚を追い回したり、芋塚川の堰を止めて水遊びをしたり、縦割りグループで川探検をしたりしたこともありました。そのような活動をかげながら支えて下さったのは地域の皆様でした。

このように姫松小学校では、保護者の皆様や地域の皆様、そして同僚の仲間に支えられることで、力不足の私でしたが子どもたちとの関係はいつも満たされていました。

築館の留場から本木の山道を通って姫松小学校に通ったことがつい昨日のようです。

平成13年 学芸会



心の故郷に感謝して

村岡 いく子

「子どもは学習者である前に人です。それゆえ、子どもの人として生きることの質を向上させることが大切です。学校教育のどの場面においても人としての在り方・生き方に結びつけて教えてあげられる教師であり学校であって欲しい。本当に大切なものは心に残ります。学びの意味を教えることです。」

未だに忘れることのできない当時ご一緒させていただいた校長先生からのメッセージ。長い教職生活を振り返るようにしみじみと話されるその言葉の一つ一つが本当に切なる尊い言葉として心に染みわたりました。心に染みる言葉には、自分もそうでなければという思いへの気づきと、自分の生き方への指針を示してくれる魅力があることを実感としたのです。そして、このことへの感謝の念は日々であり、更に年々増すばかりです。

「子どもたちのために惜しみなく愛情を注ぎ、懸命に尽くして下さった素晴らしい姫松の地域・家庭・職員の皆様との出会い。自己の可能性を信じ、更に高めていこうと努力を惜しまない子ども達。この学校で学んだことに自信をもち、感謝と誇りに満ちた子ども達。よき先輩に憧れ、よき伝統を引継ぎ、更にそれらを越えていこうと取り組む頼もしい子ども達との出会い。言い尽くせぬほどの貴重な思い出をいただいた姫松の8年間。まさに至福の時間でした。」

今も、あの日あの時の感動を一層意味あるものとしていただいております。

多くのことを教諭してくれた姫松地区や姫松小学校は、私にとって決して消えることのない心の故郷なのです。心より感謝申し上げます。





姫松小学校の思い出

元職員 高橋 初枝

私は、昭和51年1月18日から29年間、姫松小学校に勤務しました。その間、本当にたくさんの思い出ができました。勤務し始めの頃は宿直がありました。1週間を、私の主人、小山哲夫さん、事務員の3人で交代しながら行いました。姫松小学校が木造校舎の間、その宿直は続きました。木造校舎の解体や引っ越し、プレハブでの勉強などもはっきり覚えています。解体の際に出た廃材が築館にある「錦」という店舗に再利用され、職員の皆さんと何度か訪れ懐かしんだこともありました。ある年には、6年生が一生懸命育てたスイカを収穫するとき、「もっと大きくするように、もう一日待ちましょう」ということで収穫日を1日延ばしたところ、翌日の朝、スイカを全部盗まれてしまったということもありました。子どもたち一人一人のこともよく覚えています。姫松小学校がなくなってしまうのは本当にさみしいですが、通う場所は違っても、姫松の子どもたちには元気に学校生活を送ってほしいと思います。

半世紀を振り返って

昭和25年度卒業

小野寺 ハルコ

昭和20年に姫松村片子沢分校に入学し、4年生からは姫松小学校で勉強しました。5年生になると宝来分校の人達が入り姫松全員が一緒になり同級生114人でした。今では考えられない位兄弟が多かったですね。通学するにも道中が長く、帰りは途中で、どこかの家の庭に集り遊んでいましたが、夕方になると皆んな家に帰り、風呂たき、夕食の支度、家畜の世話と分担して働いた事が懐かしいです。昭和30年には、姫松村も合併する事になり、一迫、栗駒、築館と分村してしまいました。

其の他昭和25年には、「姫松音頭」が作られたのです。「来ても見しゃんせ姫松村は、松の緑が美しい・・・」

また姫松小学校の敷地内には、姫松中学校もあり時代の流れで、一迫中学校に統合されました。こんどは、姫松小学校も廃校になる事に、親子共どもお世話になり、本当に有難うと、お礼を申し上げます。

学校はなくなりますが、姫松には校歌が残っています。姫松小中学校の校歌と、姫松音頭は、いつまでも姫松の宝物として歌い続け残したいと思います。



木造校舎



昭和41年 卒業式



姫松小学校への思いと今後へのぞむこと

昭和36年度卒業

三浦 一男

私の姫松小学校の思い出は1年入学時は、二宮金次郎の銅像があり、入学式の時の記念写真に私のおじいさんがハンティング帽をかぶり後ろの方で背伸びをし、また、私は坊主頭で草履入れを口に咥えて写っていました。父母でなくお祖父さんが、初孫の入学なので身出しを整えてきたんだと思います。

校舎の思い出は、木造で下駄箱に靴を置き、低学年は1階の教室で職員室の廊下向かいが便所で階段を5～6段降りて行ったと思います。手洗いの容器がブリキの容器で、下の棒を押すと水が出る仕組みのものでした。高学年になってからは教室が2階になりました。幅が広く長い階段は初めてでした。反対側にも階段が有り、渡り廊下にはザラ板でそこを通り体育館にいきました。掃除は当番制で教室や廊下の雑巾がけはまあまあでしたが、階段や渡り廊下の雑巾がけは大変でした。冬の教室は亜炭ストーブで、これも当番制でまきや亜炭を教室に運び暖をとったものです。またストーブの上にブリキ缶をのせ水をいれその上に弁当をのせて温めたのですが、暖くなるとたくあんや納豆の匂いが大変でした。小学校が現在の鉄筋コンクリートの建物になってからは長女が入学し、6年間の学校生活を送り、私もPTA活動等でお世話になりました。

姫松小学校が無くなることは寂しいことですが、私たちが卒業後に建てられた体育館、整備されたグラウンドは、小学校から60歳を過ぎた今でも学校行事、コミュニティ行事、地域行事等で利用させて頂きました。

今後、体育館、グラウンドの管理を地域で行い、利用させて頂き、その時に記念碑を見て、小学校からの思い出にひたりたいと思います。

木造校舎への思い

昭和39年度卒業

高橋 睦夫

木造2階建てスレート葺、東西に88m、南北に10m。これは私が昭和34年4月に入学した姫松小学校の構造と大きさです。当時の私には凄く大きな校舎で、特に廊下は、途方もなく長いものでした。この廊下を上学年になると雑巾による拭き掃除当番があり、プラス私には罰当番も度々あたりました。そのお蔭もあり、還暦を迎えた今日まで健丈な体格を有しています。

入学から昭和53年5月に解体されるまで機会あるごと、あの威風堂々とした、また温もりのある木造校舎を、思い出と共に見続けました。

現在、国で木造3階建て校舎の建設に向けた耐火基準の緩和が検討されています。

いつの日か栗原の地に、温もりいっぱい木造校舎が再び出現することに、夢を馳せています。



校舎解体工事

閉校にあたり

昭和41年度卒業

熊谷 孝行

私は、昭和41年度卒業生です。私たちのころは、まだ、木造校舎でした。板壁で今でも面影が浮かんできます。校舎に入るとうす暗くスノコ板、木の柵の古い下駄箱がありろうかの床は板張りです。毎日掃除をしているのでつやがあつてツルツル、階段を上がればギシギシと、手すりを利用して滑り台、そんな思い出があります。冬になればだるまストーブ、石炭を焚きストーブの側に机を寄せ暖まりながら外を見ていました。校庭に出れば、花を描いて陣取り合戦、かかしを描いて石とりゲーム、今プールの有るところには池があり周りには桜の木がありました。春には花が咲き秋には紅葉、そんな桜の木の下でビー玉をしたのを思い出します。学問より遊びの思い出がのこっています。これからも、子や孫に姫松小学校の歴史を残していきたいと思ひます。

本当に長い間ありがとうございました。



**思い出は今も鮮明に**

昭和55年度卒業

氏家 栄宏

秀峰「栗駒山」に抱かれ、豊かな大自然に包まれた姫松小学校。清らかな川が流れ、山や田畑の緑に囲まれた姫松小学校。私が姫松小学校を卒業したのは、もう32年も前のことですが、当時の事は今でも鮮明に思い出されます。

入学した頃はまだ、歴史を感じる木造の校舎でしたが、在学中に校舎の建て替えという貴重な経験もさせてもらいました。建て替えの時は、体育館を間仕切りし、教室として過ごしたのもとても良い思い出です。

小学校で過ごした6年間、運動会や学芸会、写生会や日本一周マラソンと称して毎日校庭を無心に走ったことなど沢山の思い出深い行事がありました。その中で一番の思い出はやはり、泣いたり笑ったり、仲間と過ごした毎日の学校生活です。そんな母校での思い出は私たちの心の中に永遠に生き続けます。

ありがとう姫松小学校。



昭和55年 栗駒登山

姫松小学校の思い出

平成3年度卒業

佐藤 彰彦

自分の卒業した小学校が閉校すると聞き、とても寂しい気持ちと同時に、小学生時代過ごした記憶が思い出されます。学校まで、歩いて30分ぐらいかかりましたが、友達と話しながら歩いたので、あっという間に時間が過ぎ学校に着いた感じがしました。放課後は、野球の練習、陸上の練習と夕方遅くまで練習した記憶があります。日曜日などは、野球の試合に明け暮れ、勝っても負けても、とても楽しい日々でした。また、試合の後のラーメンは、格別うまかった気がします。

小学校の一番の思い出は、水泳のリレー種目で優勝し金メダルを取った事です。これから一迫小学校に通う事になる子供達へ、何事にも負ける事なく夢と希望を持ち楽しく明るい小学校生活を過ごして下さい。心から祈っています。



平成2年10月 学芸会



姫松小学校での思い出

平成14年度卒業
加藤 修

私は、平成15年3月に姫松小学校を卒業しました。今回、姫松小学校が閉校になるということで、とても淋しく感じるのと同時に、小学校生活6年間の日々が思い出されます。

数ある思い出の中で、たてわり活動の行事が特に心に残っています。運動会でのリレーや校内清掃活動など、たてわりで行った行事は多くあります。その中で、上級生は下級生をひっぱっていき、下級生はそれに一生懸命ついていこうとし、たてわりの中で絆が生まれていきました。私は、そういうつながりがとてもすきでした。学年問わず協力し合い活動することが楽しく感じられました。

姫松小学校は閉校してしまいますが、そこで過ごした日々は一生忘れることはありません。また、姫松小学校の良き伝統を我が子にも伝え、次の世代、また次の世代へと受け継いでいければと思います。



平成14年度 卒業式

姫松小学校との思い出は本当にたくさんあります

平成19年度卒業
菅原 優海

入学前、運動会に行ったり遊具で遊んだこと。入学して、姫松を探検したり一輪車やなわとびで学年関係なく笑い合ったこと。音楽祭では全校合唱で校長先生とも一緒に歌ったこともありました。そして卒業後も、遊びに行けば自分が通っていたときと同じように迎えてくださった先生方。また、ふれあい祭りや運動会などを通して地域の方との交流もしました。こうしてあげていくと本当にいろいろなことがありました。通っている児童数が少ない小さな学校だったけれど、私たち卒業生や今まで通ってきたみんなにとってとても大きな存在だったのではないかと思います。

姫松小学校がなくなってしまうのは残念でとても寂しいです。でも、沢山の思い出を作ることのできた姫小は、私にとってこれからも忘れることのできない大切な場所になりました。たくさんの思い出をありがとうございました。



平成17年度 第1回栗原市小中学校音楽祭



姫松小での6年間

平成21年度卒業
佐藤 奏絵

私が6年間過ごした姫小にはたくさんの思い出がつまっています。私たちの担任をした先生方は一人もいません。阿部万里先生、加藤茂樹先生、曾根原はつみ先生、小野寺正子先生、千葉修先生、佐藤弘子先生、高橋真由美先生、佐々木将治先生、遊佐素子先生の九名の先生方。それぞれの学年でそれぞれ違った楽しい思い出、そのたくさんある思い出の一つも忘れていません。かけがえのない思い出をくれた学校、私たちの育った学校、友達との出逢いをくれた学校。そんな姫小が閉校となるのはとても悲しいです。でも姫小はなくなっても私たちの心には残っています。

140年の歴史に幕を閉じる姫小に様々な感謝を込めて「ありがとう」。



平成17年 パイキング給食

思い出の母校

平成24年度 1学年保護者
大内 勇人

初めに、我が母校姫松小学校が無くなると聞いた時は正直驚きました。と同時に昨今の学校再編計画も有り、いたしかた無いという思いも有りました。

又、早いもので、私が姫松小学校を卒業して22年経ちました。当時の事を思い起こしてみると実に様々な思い出が蘇ります。友達と毎日の様に休み時間に校庭でサッカーをして遊んだ事、冬には正面の土手でミニスキーやソリ遊びをした事。学校行事では春、秋と田植えや稲刈りをし、おいしいお餅をみんなで食べた事。勉強も得意な方では無かったけれども、優しい先生方のお陰で楽しく学んだ事を、今も鮮明に覚えています。そんな思い出が沢山つまった母校が無くなる事は誰にとっても本当に淋しい事だと思います。そんな中で一つ嬉しい事が有ります。自分の息子が姫松小学校の最後の新入生として、今年入学した事です。代々続いて来た歴史有る学校を親子揃って通った事は何事にも代え難い「思い出」となり生涯心に刻まれる事と思います。

最後になりますが、姫松小学校よありがとう。



昭和58年 稲刈り

昭和56年 山ゆり農園



姫松小学校最後の卒業生

平成24年度 6学年保護者
大場 義和

平成19年4月に入学した7名の児童は、翌年度から1学年2名との複式学級となり、姫松小学校の存続が心配になってきたのもこの頃からでした。5学年になり1名お友達が増え、今年度は6学年8名で学校生活をリードしてきました。どの行事においても姫松小学校最後というプレッシャーを受けながらも夏の猛暑にも負けず、水泳大会や陸上大会での自分達の目標に向かって最後まで頑張る姿に感動しました。ふれあい市民体育大会では下学年を支えながら地域の方々と一緒に活躍する姿に、改めて姫松小学校の良さと閉校を惜しむ思いを強く実感しました。

東日本大震災、原発事故による放射線被害等、教育環境に多大なる影響を受けたにもかかわらず、こうして無事に卒業できることを学校関係者、先生方、地域の皆様に対し、心から感謝申し上げます。



平成19年4月 入学式



平成21年 あいさつ標語



昭和56年3月 6年生送る会





ありがとう！！姫松小学校

～楽しい思い出がいっぱいできました～

ほくは、うんどう
かいがたのしおた
です。たてわりりれえ
やどらごんぼお
なした。たのしい
おもいでになり
ました。

ほくは、うたがす
です。せんこうがうた
うたった。まじし。か
をにっています。
せんこうのみんをすて
をなうた。ごうた。うた
よいおもいでになりました。

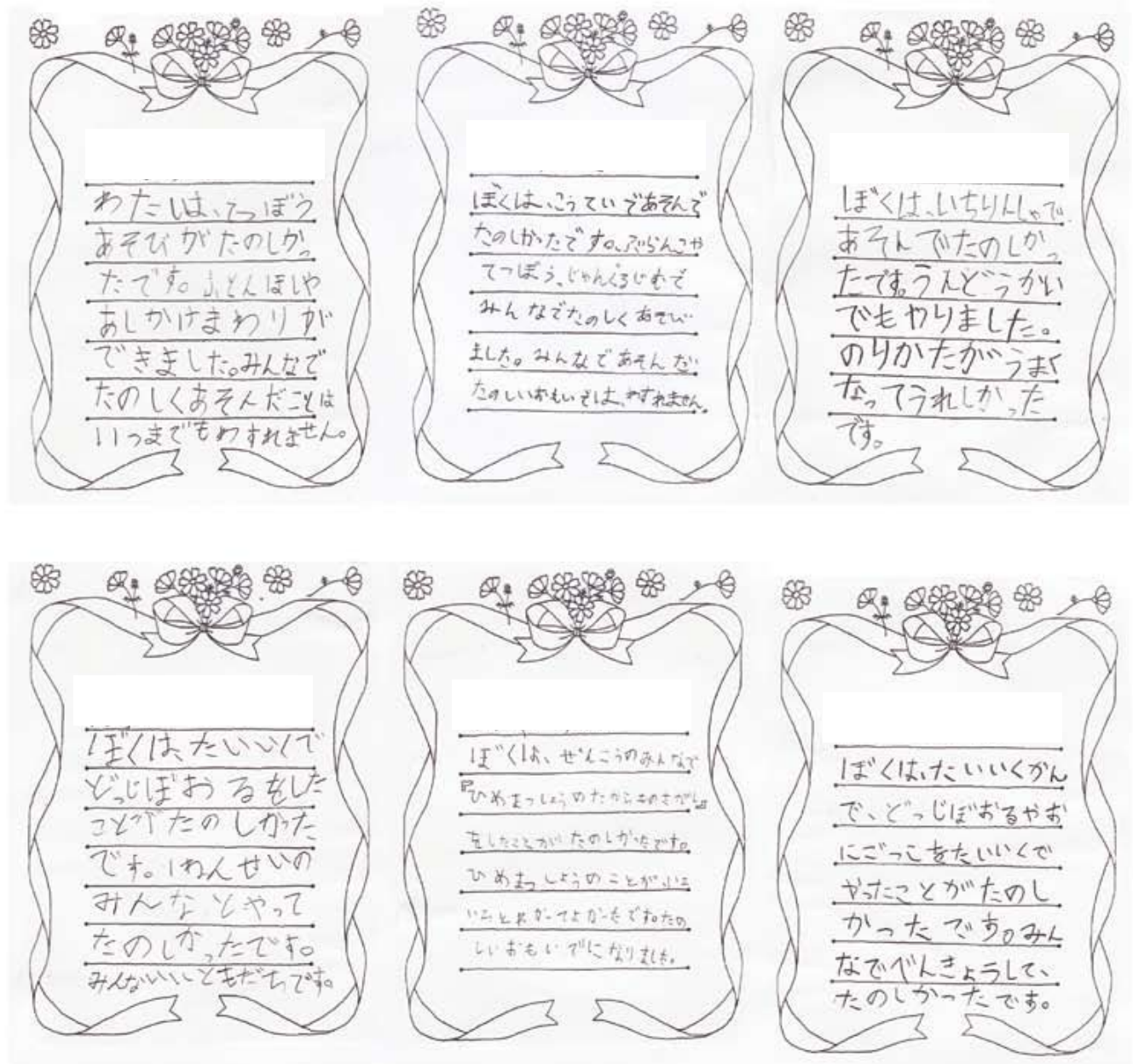
ほくは、せいりつが
こまる。まじ。た
がまじりをみんを
つがまえてたのしお
たが。おもしろ
うた。このうた。い
なす。たが。たて



わたしは、ひめまつし
うた。このみんがす
です。なぜかという
こま。ていると。たす
けくれるからです。み
なと。んき。うた。す
うれし。か。た。です。

わたしは、せんこうの
せんこうで。たてわりりれえ
した。のが。たのし。か。た。す
うた。うた。い。の。し。き。に。お
ました。せんこうのみん
との。よい。おもいで。になり。した。

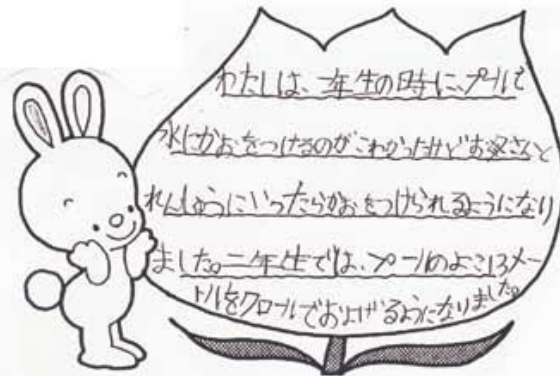
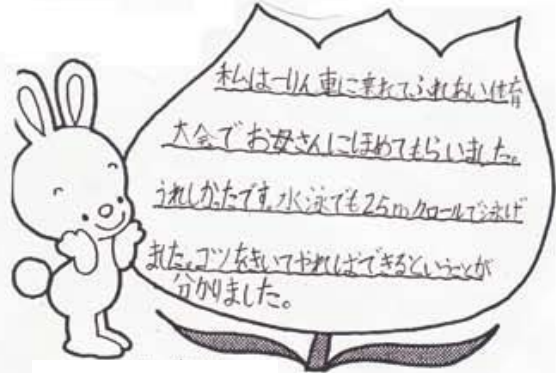
ほくは、こういで。い
どうかいをしてたのし
た。た。た。どらごんぼお
りれえがたのし。か。た。す
まじのみんが。まじ。うた
まじの。よい。おもいで。になり
ました。



姫松小学校が
大すきでした！！

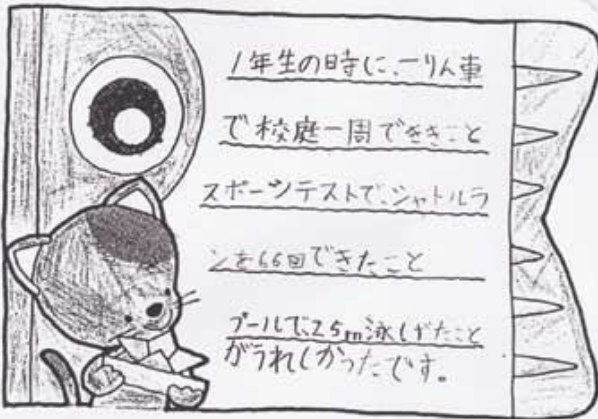
1年生







1年生の時学川会をして楽し
 しかたです。2年生の時はおもちゃ入会
 で楽しうになったことがうれしくたく
 す。3年生の時はおもちゃ入会
 のことも覚えて楽しかったです。



鉄ぼうでさか上がりや地
 球まわりができるようになり
 ました。ほかにプールで25m泳げるよになり
 ました。よこも泳げるよになりました。
 思い出いろいろありがとう。



2. 3年生





姫松小学校の思い出



4 & 5 年生

ぼくの一番の思い出は、3年生の時のトッジボール大会です。内野にいてぼくだけのこった時はとてもきんちょうしました。でも、楽しかったです。



ぼくの一歩の思い出は陸大会で1000メートルに出たことです。4分34秒94で自己ベストを出しました。1位の子は、3分30秒でした。自分は、まだまだです。でも、全力で走りきりました。



私の思い出は、3年生の時学芸会で、「セロひきのゴージュ」のけきをしたことです。私は、小鳥の役でした。練習のときよりも本番の方が上手にできたのでうれしかったです。



ぼくの思い出は、陸上大会で100メートル走に出たことです。練習では22秒だったが、たけど大会では20秒だったのがベスト記録でした。大きな会場で走ったことが思い出です。





私の一番の思い出は、4年生の時の夏の児童会行事です。「姫松のなぞをもきあかせ」のクイズで全問正解になりました。学校の古い写真ももらいました。



姫松小の思い出は、市の陸上大会で組で1位をとったことです。それに自己ベスト19秒21を出したことです。姫小最後の陸上で組1位になりうれしかったです。



私はなわとびをしたことが心にのこっています。みんなは、交さとびやあやとびが上手にできていました。うらやましくていっぱい練習したら2つともできるようになりました。うれしかったです。



ぼくが一番思い出にのこったのは、運動会のたてわりリレーです。赤組が1位をとりました。ぼくは友達からバトンをもらってがんばりました。



ぼくの思い出は、ドッジボール大会です。4年生の時に6年生をあてたからです。とてもモチよかったです。



ぼくの一巻の思い出は運動会のたてわりリレーです。今年はアカーでいきんちうしたけど、最後まで全力を出して走ることができました。迫小に行ったらたくさん友達をつくらせて遊びたいです。





思い出を いっぱい ありがとう 6年生



ぼくは、姫松小学校で堂々と人前で発表することができるようになりました。ぼくははずがしがりやで人前で話すことがあまり得意ではおぼへてた。学芸会で色々な演技を通して、うちの人前に出て話したりするのが女子きになりました。

私は、姫松小学校で協力することを覚えました。運動会のたすけリレー、休み時間にクラスのみんなと2位を目指して走りこんで練習しました。結果は、最低位だったけれど、運動会ならではのわいわいした感じがよかったです。

私は、姫松小学校で努力の大切さを学びました。水泳で、背泳ぎと平泳ぎができなかったけれど、フォームに気をつけてたくさん練習したら、上手に25mを泳ぎ終わるようになりました。努力をすると成功することがわかりました。

私は姫松小学校でみんなと心をつなぐことを学びました。運動会のリレーで始めは、心がなやまずに縮まる感じがして、どうしたらタイムが縮まるかとみんなと話し合い、所懸命練習しました。大会では新記録を出すことができました。





僕は姫松小学校でみんなと協力することを学びました。夏の児童会行事では、難しい問題を他の学年の友達と相談して解決することができました。これからも友達と協力していろいろなことに挑戦していきたいです。

私は姫松小学校で人前で堂々と発表できるようになりました。1年生のころは人前に出ると小さな声でもっともじなから発表していました。6年生の時、姫松地域の音楽会で全校のみなさんの前で大きな声で発表ができたことが一番の思い出です。

ぼくは姫松小学校で、たくさんのおもちゃができました。みんなとたくさん遊んだことが、自由です。

ぼくは姫松小学校で人とのつながりを学びました。修学旅行では、他校の人との交流を通してたくさん友達をつくることができました。これからもたくさんの人とのつながりを広げていきたいです。





昭和16年頃 中学校校舎

昔の校舎

思い出の校舎



木造校舎内



校舎解体工事



昭和2年12月姫松小学校尋常高等小学校6年生(昭和3年3月25日卒業)男子生徒は、全員フランス帽を着用しているが、当時としてはきわめて珍しい記念写真である。



一迫川にて

戦前～



大正6年姫松小学校校舎と全校生徒記念写真



昭和11年3月
尋常科卒業記念



平成5年 航空写真



昭和26年頃 運動会の様子



運動会





昭和 44.8 姫小プール完成



戦後～昭和

昭和 47年 県庁前 5年生



昭和 49年 百周年記念



昭和 53年度 離任式



マラソン大会



昭和 57.6.24 マサキニット見学



昭和 56年 運動会



昭和 58年 へちま



昭和 28 年生まれ 入学式

入学式



昭和 50 年 入学式



昭和 32 年生まれ 卒業式



昭和 13 年生まれ 卒業式

卒業式



昭和 15 年生まれ 卒業式



昭和 56 年度卒業記念制作



平成7年 姫松少女バレーボールスポーツ少年団



平成9年 くりでん



平成9年度 離任式



平成13年 ふれあい参観

平成～



平成24年度 学芸会集合写真



あとがき

閉校記念事業実行委員会閉校記念誌部長

小山 浩喜

平成25年3月閉校するにあたり閉校記念事業実行委員会を立ち上げ部会を編成しました。式典企画部会は閉校記念式典と記念碑建立事業、記念誌部会は栗原市で発行する記念誌の資料収集と編集作業が役割です。

編集作業では昔の写真を見て懐かしく、年表作成では改めて学校の歴史を再認識するなど、140年の歴史の最後に本事業に関わったことは大変意義深いものがありました。

地域の皆さんに懐かしい写真を募集したところ貴重な写真を提供していただき有難うございます。また快く原稿をお寄せいただいた皆様には深く感謝申し上げます。



平成24年度 ふれあい体育大会



栗原市立姫松小学校閉校記念誌

発 刊 平成25年3月

発 行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立姫松小学校閉校記念事業実行委員会
栗原市立姫松小学校

